

ザ・ギバー

記憶を伝える者

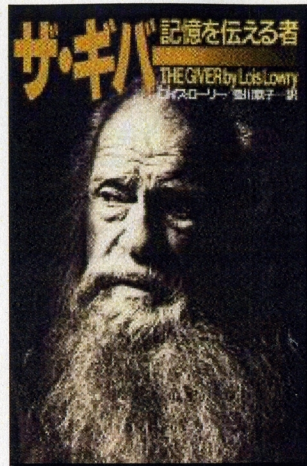
色ではない、形ではない、でも確かにになにかが変った。ある一個のリンゴの兆しから＜記憶を受けつづ者＞に選ばれた少年・ジョーナス。人生や感覚、感情までが管理化された社会で少年の見つけたものは…。

近未来ファンタジー。

学校は充実している、家族も仲良し、将来の仕事は決めてもらえる。
求めるものなんて何もない。
でも、なにかが違う。

ロイス・ローリー／作
掛川恭子／訳 講談社（1995年）

※2010年、新評論より『ギヴァー 記憶を注ぐ者』として新訳で出版された本も所蔵しています。



FLUSH

フラッシュ

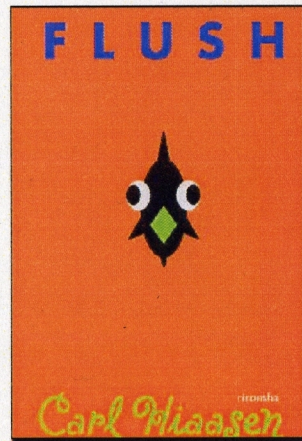
主人公の父親は、とても直情型の人間で正義感はずいぶん、たまにやりすぎる。今回もカジノ船をまるまる沈めてしまい、今は留置場そして裁判沙汰。

夫婦の危機に、ひやひやししながらも父の潔白を証明するためにノア少年はカジノ船の調査に乗り出します。

汚染された海は、そして家族の絆は救うことができるのか？

『HOOT ホー』の作者がおくる第2弾。
登場する大人がとっても個性的！

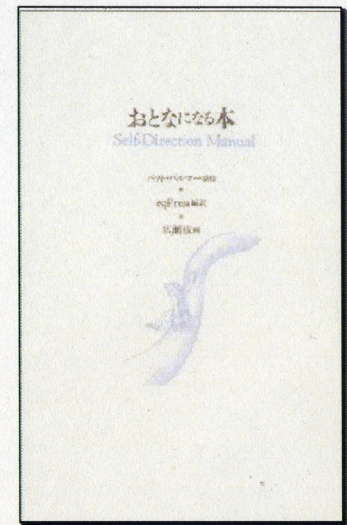
カール・ハイアセン／著
千葉茂樹／翻訳
理論社（2006年）



おとなになる本

「なんだかつまらないなあ〜。面白い事ないかなあ」と言っている人はいませんか？
そんな人のために、紹介するのがこの本です。この本を読み終わったころには、不思議と気持ちがすっきりしている…そんな内容が書かれています。この本は3部作となっていて、いずれも思春期と呼ばれる皆さんたちへ向けて書かれた本ですので、ぜひ手にとってみてください。

パット・パルマー／原作
eqPress／編訳
広瀬弦／画
径書房（1994年）



よりみちパン！セ

世界を信じるためのメソッド

ほくらの時代のメディア・リテラシー

一人ひとり世界観を持つことは大切だ。なぜなら世界観こそが自分自身だから。でも、それを伝えるメディアはときどきまちがいを犯す。なぜならメディアは「人」だから。

誤った世界観を持ってしまう前に私たちにできることは？

メディアを簡単に信じ込まず、いろいろな観点から考えるために必要な「メディア・リテラシー」。わかりやすい言葉で大切なことを語りかけてくれる。

森 達也／著
理論社（2006年）



※2012年現在、イースト・プレスより出版されています。